

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



2014年度環境活動レポート

(対象期間:2014年 10月～2015年 9月)

発行日: 2015年12月20日
改訂日: 2016年7月30日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なって参ります。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探求・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改定日：2011年07月07日

取締役社長

金田 大地

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社:兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
本社工場: 同上

(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



・株主 1名。

・取締役(役員) 1名

・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっていません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)

- ・金属くず商
- ・古物商
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 3.32億円 (2014年度)

主要商品取り扱い量 6,204t (2014年度)

※事業年度期末時点

活動規模	単位	2007年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
取り扱い数量	t	8,018	6,388	6,215	6,525	6,204
内訳:金属スクラップ	t	8,007	6,378	6,210	6,525	6,198
内訳:産業廃棄物 (収集運搬)	t	11.4	9.9	5.5	0.6	5.9
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	477	281	334	404	332
従業員	人	3	5	5	5	5
床面積	m ²	580	580	580	580	580
保有貨物車両台数	台	3	3	3	4	4
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	3	4	4	4	4

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分: 事務機器類

◆扱い品目: 自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成24年1月22日

許可の有効年月日:平成29年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず

7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成24年1月18日許可更新

平成24年1月18日変更許可

以下余白

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

(10) 施設の状況

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディ車	1
7t積み平ボディ車	1
4t積みユニット搭載平ボディ車	1
4t積みアームロール車	1
荷役車両	台数
2.5t揚力フォークリフト	3
油圧式バックホー(0.25m ³ クラス)	1
乗用車両	台数
普通乗用車	1
軽自動車	1

※取引先構内車を含む。

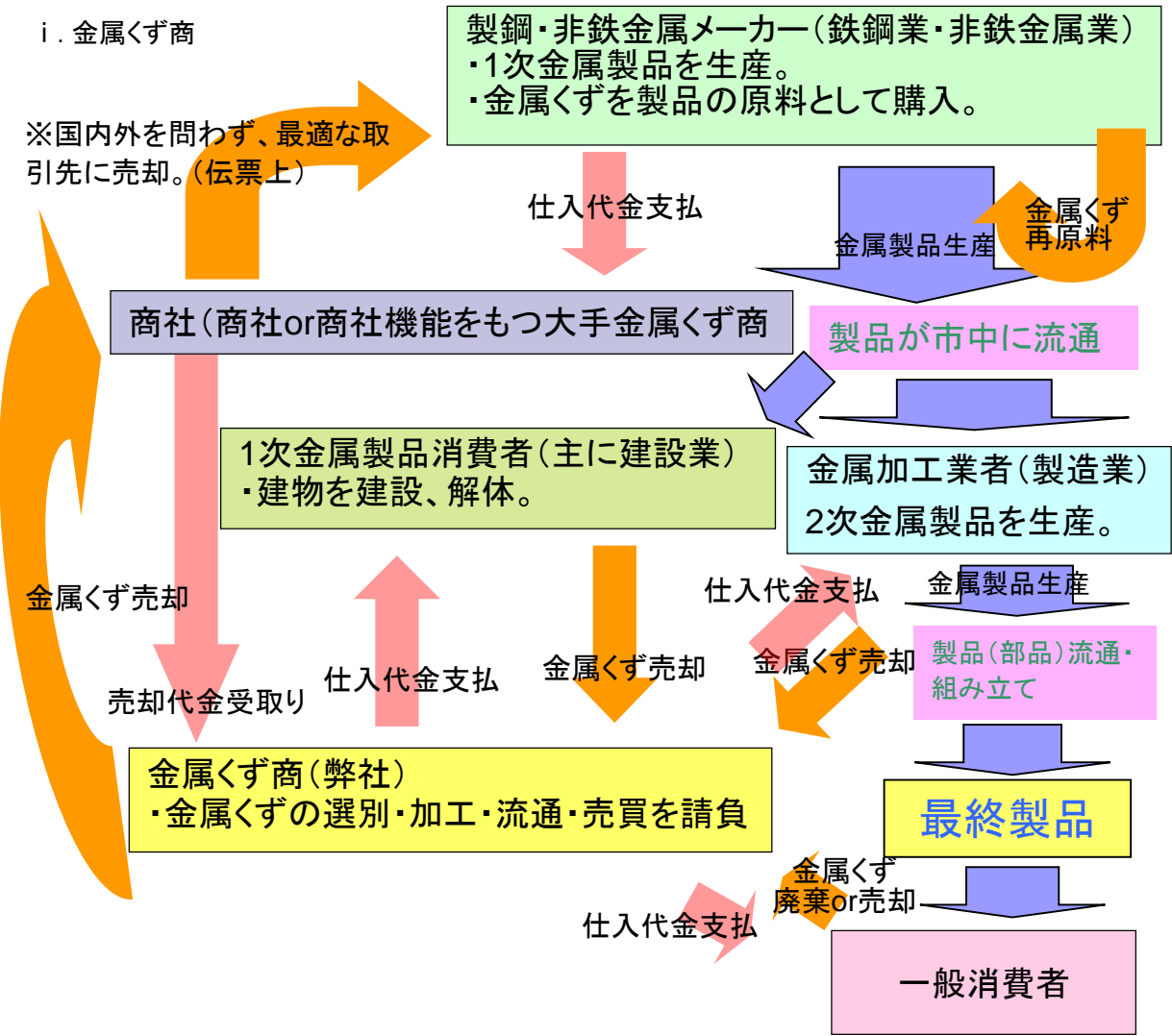
(11) 処理実績

産業廃棄物(収集運搬)	単位	2007年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
廃プラスチック	t	11.4	9.9	5.5	0.6	5.9
産業廃棄物収集運搬 合計	t	11.4	9.9	5.5	0.6	5.9

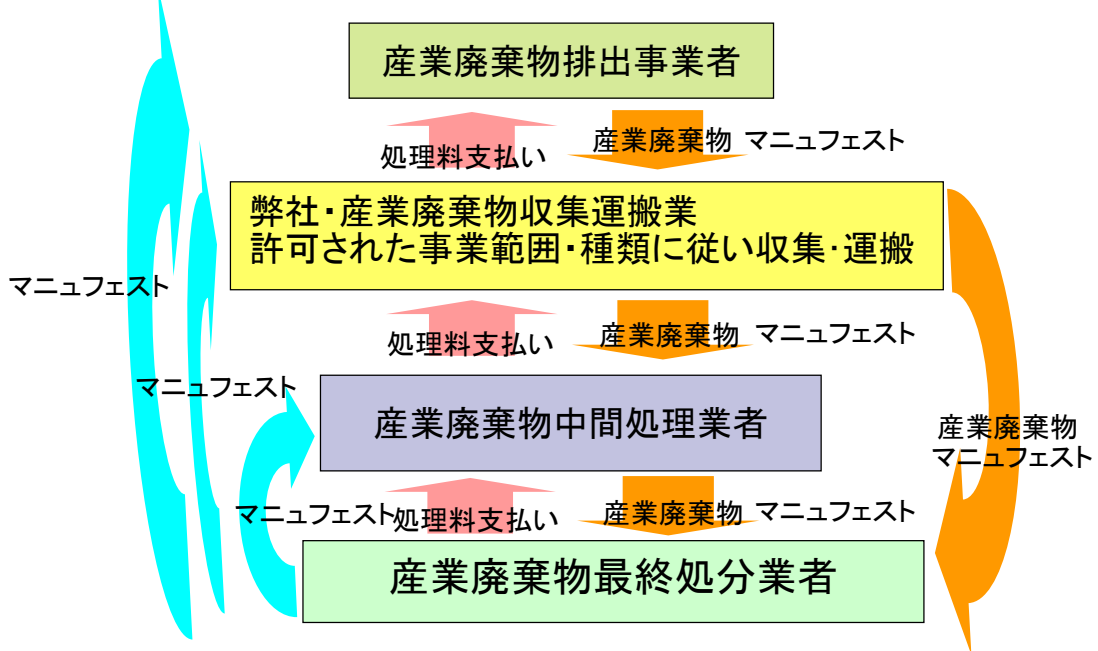
(12) 廃棄物処理料金

取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(13) 事業計画及び事業概要



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	基準年度 (目標項目毎)	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	58,434.20	42,753.24	53,350.32	52,851.22	48,775.14
廃棄物排出量	t/年	1.620	5.343	8.652	11.713	9.148
一般廃棄物排出量(自社)	t/年	0.170	0.166	0.240	0.223	0.316
一般廃棄物排出量(選別)	t/年		0.630	1.130	2.110	1.094
産業廃棄物排出量(自社)	t/年	1.450	0.041	0.080	0.050	0.010
産業廃棄物排出量(選別)	t/年		4.506	7.202	9.330	7.728
総排水量	m ³ /年	24.00	41.00	36.00	34.00	34.00
受託した産業廃棄物の処理量	t/年	11.43	9.92	5.48	0.58	5.93

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

*2012年度二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWhを全年度に適用し、再計算。

□環境目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項目	年度	基準値	2014年度		2015年度	2016年度
		基準年度 (目標項目毎)	(目標)基準年度 比95%~	(実績)	(目標)基準年度 比94.5%~	(目標)基準年度 比93.0%~
1.電力の二酸化炭素排出量削減(2011年度基準) ※1	kg-CO ₂	4,850.10	4,607.59	4,495.44	4,559.09	4,510.59
2.軽油の二酸化炭素排出量削減(2007年度基準)	kg-CO ₂	43,236.03	41,074.23	39,856.27	40,858.03	40,641.86
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減(2007年度基準)	kg-CO ₂	4,900.91	4,655.97	1,766.69	4,631.35	4,606.85
4.灯油の二酸化炭素排出量削減(2007年度基準)	kg-CO ₂	358.84	340.90	0.00	339.10	337.30
5.LPGの二酸化炭素排出量削減(基準年度を通期使用実績のある2008年度に変更)	kg-CO ₂	5,088.32	4,833.91	2,656.73	4,808.46	4,783.02
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	58,434.20	55,512.59	48,775.14	55,196.03	54,879.62
6.一般廃棄物の削減 ※2 (2011年度基準)	(t/年)	0.17	従業員1人当り 0.056t/年以下	0.063	従業員1人当り 0.056t/年以下	従業員1人当り 0.056t/年以下
7.産業廃棄物の削減 ※3 (2007年度基準)	(t/年)	1.45	商品数量1t/0.18kg以下	0.0016	商品数量1t/0.18kg以下	商品数量1t/0.18kg以下
7-1.有価物から除去廃棄物	(t/年)			0.71		
8.節水	(m ³ /年)	24.00	37.00 従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³	34.00 従業員6.8m ³ /人	37.00 従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³	37.00 従業員7.4m ³ /人 以下≤37m ³

※1.電力の二酸化炭素排出量削減基準を2011年度とし、以後二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO₂/kWhで換算。

※2 6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※3 7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

・取り扱い数量目標

項目		年度		2013年度	2014年度		2015年度	2016年度
		(基準年度)	(目標)前年度比102%	(実績)	(目標)前年度比102%	(目標)前年度比102%		
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:基準年度比102%)	トン/年	6,524.58	6,655.07	6,197.94	6,321.90	6,448.34		
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:基準年度比102%	トン/年	0.58	0.59	5.93	6.05	6.17		

・グリーン購入の推進

項目		年度		基準年度実績	2014年		2015年	2016年
		2013年度実績	(目標)前年度目標比+2点	(実績)	(目標)前年度目標比+1点	(目標)前年度目標比+1点		
11.グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数/年	11	13	14	15	16		

・地域貢献活動

項目		年度		2013年	2014年		2015年	2016年
		(前年度)実績	(目標)前年度比+2回+1本	(実績)	(目標)前年度比+1回+1本	(目標)前年度比+1回+1本		
12.弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回/年	6	8	9	10	11		
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本/年	46	47	74	75	76		
項目		年度		2013年	2014年		2015年	2016年
		(前年度)実績	(目標)前年度比102%	(実績)	(目標)前年度比102%	(目標)前年度比103%		
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg/年	103,691.30	105,765.13	99,852.35	101,849.39	104,904.87		

□環境活動の取り組み計画と評価、次年度の取り組み内容

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
I.二酸化炭素排出量削減 (全体) 基準年度比95%以下 達成手段 下記の1～5による。 1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4.灯油の二酸化炭素排出量削減 5.LPGの二酸化炭素排出量削減 達成手段実践状況評価 下記の1～5による。	基準年度	58,434.20	kg-CO2	○目標達成 目標5項目中 達成 5
	目標	55,512.59	kg-CO2	二酸化炭素の排出量削減…総括としての全体評価は、目標値比87.86%で、12%超下回り、目標を達成。電力が累計目標値を約2.4%下回り、念願の通期目標達成となった。LPGは、目標値比52.6%で約半減で優良。灯油は、使用量0で、目標達成。ガソリンは、エコカーとの乗換えで、通年の累計目標値の0.379倍で超優良実績での目標達成。軽油は、前年度より削減率が落ちたが、累計目標値比97.03%で約3%下回り、何とか目標達成。総括すれば、全5項目のすべてが目標を達成しており、ea21認証登録以来の好成績を上げた。削減努力を行いながら、年々、実情に応じた目標設定に変更してきたことが成果に繋がった。今後も、達成可能な目標を立て、一歩ずつ着実に環境活動を行うように指示。
	実績	48,775.14	kg-CO2	
	削減量	6,737.45	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.88		
1.電力の二酸化炭素排出量削減 *2011年度より、電力使用量の二酸化炭素排出係数を0.514kg-CO2/kWhに変更使用。 基準年度2011に変更。 ①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動 ③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	基準年度	4,850.10	kg-CO2	○ 目標達成
	目標	4,607.59	kg-CO2	累計で、目標値比0.9756倍。約2.4%下回り、達成。事務員の業務熟度が向上したことに加え、作業面では、作業場レイアウトと作業手順を標準化、Lineによる情報共有により、業務効率の向上から、就労時間が短縮され、結果、電力使用量が削減された。
	実績	4,495.44	kg-CO2	
	削減量	112.15	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.98		
上記 達成手段実践状況評価 ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要な場所以外消灯している。				【次年度取り組み】 LEDライトの価格が下がってきたので、従来電灯との交換を検討するよう指示。
2.軽油の二酸化炭素排出量削減 エコドライブ [®] 運動展開 ①アイドリングストップ ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	基準年度	43,236.03	kg-CO2	○ 目標達成
	目標	41,074.23	kg-CO2	通期累計目標値比97.03%。取引数量が前年同期比で、5%減少する中で、軽油の消費量が増加。一因に、取引先の金属スクラップ回収代行サービスがあり、商品の運搬のみの運賃仕事が上がられる。同サービスにより推定150ℓの軽油消費。にしても、増加幅が大きいので、運搬車両が、4台になり、基礎消費が大きくなったことが主原因と考えられる。
	実績	39,856.27	kg-CO2	
	削減量	1,217.96	kg-CO2	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…△ 車両の買い換えは無し。 ⑤…○ 車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。				【次年度取り組み】エコ操業、効率的な業務を指示。
	目標対実績比率	0.97		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減	基準年度	4,900.91	kg-CO2	○ 目標達成
エコドライブ [®] 運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③冷房の控えめ使用 ④買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施	目標	4,655.97	kg-CO2	年間達成状況: 月次目標達成12回。 累計目標達成12回。 通年の累計目標値の0.379倍で超優良。 通年の累計目標値の0.379倍で超優良実績での目標達成となり、エコカーの性能にただただ驚くしかない。 【次年度取り組み】引き続き、エコドライブ励行を指示すると同時に、水平展開として化石燃料系の車両で電気およびハイブリットに交換できるものが無いのか検討するよう指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 前期末ハイブリット車に乗り換え。 ⑤…○ 車検・オイル交換等実施。	実績	1,766.69	kg-CO2	
	削減量	2,889.28	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.38		
4.灯油の二酸化炭素排出量削減	基準年度	358.84	kg-CO2	○ 目標達成
①暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 ②設定温度18℃(暖房20℃以下) ③ウォームビズ運動	目標	340.90	kg-CO2	年間達成状況: 月次目標達成12回。累計目標達成12回。CO2の換算計数が電力より大きいので使用を中断し、3年ほど経つので、このまま使用実績が無いのであれば、目標項目からの削除が望ましい。 【次年度取り組み】 目標項目からの灯油の削除を検討するよう指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 設定温度を守っている。 ③…○ 室内でも防寒具着用を推奨。	実績	0.00	kg-CO2	
	削減量	340.90	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.00		
5.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	5,088.32	kg-CO2	○ 目標達成
(基準年度は2008年度) エコドライブ [®] 運動展開 ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施	目標	4,833.91	kg-CO2	通期、月次目標達成12回。累計目標達成12回。目標値比0.549倍。良好。 LPG車使用の1顧客の基準年度(2008)の取引数量3,957.1トン、当年度2,357.0トンと基準年度は、当年度の1.678倍、当年度は、基準年度の0.5956倍となっている。基準年度比40%減となっており、LPGの使用量と比例している。つまり、絶対量は削減できているが、実態としては、横ばいと同じということ。 【次年度取り組み】エコドライブを指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…○ 特定自主検査実施済み。	実績	2,656.73	kg-CO2	
	削減量	2,177.17	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.55		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
6.一般廃棄物の削減	基準年度	0.17	t	× 目標未達成
※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったので、評価は、1面的です。	目標	従業員1人当り 0.056t/年以下	t	当年度から、従業員1人あたりの目標値を設定し、削減を行ったが、排出量が10%超上回ってしまった。一廃の排出量は、前年度より増加しており、要注意である。 【次年度取り組み】紙類および軍手、皮手袋の廃棄削減策の策定を指示。
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化	実績	0.06	t	
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	削減量	-0.03	t	
	目標対実績比率	1.12		
7.産業廃棄物の削減	基準年度	1.45	t	○ 目標達成
①分別ボックスの設置 ②分別意識の向上を目的とした社員教育 ③分別の徹底による有価物化	目標	商品数量1t/ 0.18kg以下	t	通期12ヶ月で、排出量0.010tとかなり少量。「捨てない」という意識が全社にわたって徹底されている証拠である。 【次年度取り組み】継続した努力を指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 大まかな品目ごとに分別。 ②…○ 随時、口頭によるミーティングと指導を行なっている。 ③…○ 一部再生事業者へ売却。	実績	0.00161	kg	
	削減量	0.17839	kg	
	目標対実績比率	0.00896		
8.節水	基準年度	24.00	m ³	○ 目標達成
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化	目標	37.00 従業員7.4m ³ /人以下≦ 37m ³	m ³	通期において、目標達成。社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っており、とても良い。 【次年度取り組み】継続した削減行動を指示。
上記 達成手段実践状況評価 ①…△ 洗車は、ほとんど行っていない。 ②…○ 手洗い時の水の出しっ放しをしないよう指示教育した。	実績	34.00 従業員6.8m ³ /人	m ³	
	削減量	3.00	m ³	
	目標対実績比率	0.92		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
9.有価物の取り扱い量増加	基準年度	6,524.58	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	6,655.07	t (トン)	通期のすべての月で、目標を達成出来ず、累計目標値の93.13%までしか取引量を確保できなかった。当年度は、定期取引に加え、スポット取引も、前年に比べ少なく、目標達成に至らなかった。
	実績	6,197.94	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価				【次年度取り組み】当年度に、国の補助金採択されたポイントカード制を7月末から計画、新年度入りした10月に導入し、仕入顧客の固定化、リピート率向上を目指す施策をとっている。次年度の目標達成に繋げる所存である。
①…○ 仕入顧客登録数前期末比純増数541件	増加量	-457.13	t (トン)	
②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	目標対実績比率	0.93		
10.産業廃棄物の取扱量増加	基準年度	0.58	t (トン)	○ 目標達成
①新規顧客開拓 ②既存顧客への新提案 ③価格競争力の強化 ④情報収集の強化	目標	0.59	t (トン)	中盤、後半と盛り返し、全年度の10倍の取引量となった。1人の営業担当者が、活動に励んでくれた成果である。
	実績	5.93	t (トン)	
上記 達成手段実践状況評価				【次年度取り組み】この結果を全社に広め、担当職員全員で、産廃収集運搬業務に関する知識を深め、情報を共有し、取扱量の増加を目指す所存である。
①…× 新規契約数前期末比純増数0件	増加量	5.34	t (トン)	
②…○ プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○ 金属スクラップとセットの取引には価格の割引きを行った。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	目標対実績比率	10.02		
11.グリーン購入の推進	基準年度	11	品・点数	○ 目標達成
・環境負荷を低減した購買品目を前年度より、目標品数・点数以上増加させる。〔単位：品数・点数〕 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ マークのリストを備え置いた。	目標	13	品・点数	消耗品に関しては、順次、環境対応品に入れ替えが進んでおり、良い。 【次年度取り組み】新開発のエコ製品について、常に情報収集を行うよう指示。
	実績	14	品・点数	
	増加量	3	品・点数	

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評価 結果と次年度の取組内容
12.地域貢献活動	基準年度	6	回	○ 目標達成
		46	本	
①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量 上記 達成手段実践状況評価 ①…○ 日常の清掃に加え、清掃日を設け行うことが出来た。	目標	8	回	清掃活動…実施回数前年度は、6回が当期9回で良好。月に1回実施できれば、良いと思う。
	実績	47	本	
		9	回	
	増加量	74	本	【次年度取り組み】 地域に金属リサイクルに関する情報を提供する方法を考え、可能であれば、情報発信をするよう指示。
		3	回	
	27	本		
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	基準年度	103,691.30	kg	× 目標未達成
目標:買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買受け品目:アルミ缶・金属製不用品 上記 達成手段実践状況評価	目標	105,765.13	kg	買受数量…買入れは、毎月行えているが、数量は、全月で、未達成。 【次年度取り組み】 地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。
	実績	99,852.35	kg	
	増加量	-3,838.95	kg	
①…○ 自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取りを行うことが出来た。	目標対実績比率	94.41		

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
廃棄物処理法(収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	△検査合格済。 消火器要検査。
フロン回収破壊法	事務所空調機	廃棄の有無	○ 廃棄実績無し。
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。 適合車等標章(ステッカー)の貼付。大阪府生活環境の保全等に関する条例第40条の15、16	車検証、ステッカー確認。	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。	車検証確認。	○ 適合
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時	廃棄の有無	○ 廃棄実績無し。
遵守評価: ○・・・適合 違反なし △・・・改善後、適合(一部問題あり) ×・・・不適合 重大な違反あり			

□遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

□外部からの苦情

本活動期間中、かねてからの騒音・振動苦情は、シャッターの効果もあり、騒音に関しては、軽減できた模様。
後述の「その他の取り組みを紹介」参照、12月に該当土地家屋を取得し、以南の住宅との緩衝帯とし、一応の解決を図った。

■代表者による全体の評価と見直し

大・中・小項目合わせ、全14項目中、達成が11項目、未達成が3項目となり、全体評価は前年度より、達成が3項目増え、未達成が1項目減った。各項目の達成手段をより意識的に実践、アレンジしたことが、結果につながった。①-1 CO2の全体排出量は、目標(本年度)対実績(本年度)で、87.86%と12.16%下回り、かなり優良。該当項目5項目すべてで目標達成。悲願の電力消費CO2も目標達成。①-2化石燃料については、軽油については目標値を3%下回り、辛うじて目標達成。ガソリンは、ハイブリット車と入れ替えたおかげで、目標値対実績値が37.9%と60%以上下回り、先端技術のすばらしさを実感した。②廃棄物全般は、一廃が未達成、産廃は達成。商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源有価物化は、一廃63%、産廃96%と前回より産廃が良い結果。③節水は、目標単位を対従業員数に変更し、達成。④1)商品・産廃取扱量は前年度比95%、目標値比93%と目標未達成。商圏である関西の製造業と経済活動の悪さを痛感した。仕入顧客登録数前期末比純増数541件と前年度より47件減少。伸び率鈍化。期中、金属スクラップ価格が6年ぶりの安値に下落したことも一因と思われる。⑤グリーン購入の推進は、着実に目標達成⑥地域貢献活動は、1)清掃活動の成績が良好で目標達成。2)買受量は、減少で未達成。総括としては、前年度より好成績となったが、取り扱い商品数量が減少したこと起因しており、今後の目標も、商品の取り扱い数量の増量が最重要課題なので、各目標項目の設定を対商品取り扱い数量、すなわち原単位を商品数量にし、収益と環境活動の両立を図る所存である。

2015年11月21日

取締役社長

金田 大地

□その他の取り組みを紹介

①騒音・振動対策として土地・家屋を取得し、緩衝帯を設けた。

かねてからの騒音・振動苦情に対し、該当土地家屋を取得し、弊社所有の賃貸物件にし、以南の住宅との緩衝帯とし一応の解決を図った。



以上